

令和3年度

学校評価 総括評価表

徳島県立川島高等学校

令和3年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(1)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>(1) 中高一貫教育の推進</p>	<p>①中高連携の促進に努め、生徒の個性や能力を伸長するとともに、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>②6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高一貫性を促進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①・中高一貫教育推進委員会を定期的に開催し、学校行事の内容を検討し、充実させる。 ・「中高一貫教育を活かした教育活動が行われている。」と思う教員・保護者の割合は、70%以上をめざす。 ・「学校生活に満足している」生徒の割合は80%以上をめざす。</p> <p>②・川島高校での学習内容の満足度を80%以上とする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①・中高一貫教育推進委員会は、議案を精選し年間5回、中高合同の教科会を3回実施した。 ・中高一貫教育を活かした教育活動が行われていると思う教員は、「ある程度思う」を含めて59.4%（前年比1.7ポイント減）であった。保護者は75.7%（前年比2.2ポイント増）であり、過去3年間の数値は年々増加している。 ・生徒の学校生活への満足度は82.5%で、昨年より0.8ポイント増えている。</p> <p>②・教育課程やクラス編制・講座編成について中高一貫教育推進委員会で来年度に向けての課題を話し合い、方向性を確認した。 ・教育課程（選択科目等）の満足度が91.4%で前年度よりも1.1ポイント減少している。</p>	<p>総合評価</p> <p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>本年度の卒業前に行った中高一貫教育アンケートで、川島高校での学習内容、進路指導、学校行事に対する満足度がすべて80%以上となり、今後も魅力ある中高一貫教育校であるための方策を考えなければならない。</p>	<p>○中高一貫教育を活かした教育活動が行われていると思う教員は59.4%であり、毎年減少している。中高一貫教育校として危機意識を持つべきである。そう思わない教員は、現状を憂いて改善しなければとの意識が高いのか、そもそも意識が低いのか。聞き取り等により詳しく検証し、大胆な改善策を講じられることを望む。</p> <p>○中高一貫教育への生徒・教師の肯定的意見が6割前後なのは低いように思うが、生徒の学校生活への満足度は8割を超えている。中高一貫教育のメリットも含めて生徒の学校生活満足度を上げていく取り組みを続けてほしい。</p> <p>○中高一貫でできる事をして魅力ある学校にしていけば、中学の受験を受けてくれるのではないかな。</p> <p>○高校においては、中高一貫の利を失っていると思う。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①・前年度6年生対象の「6年間の学校生活」のアンケート結果を踏まえ、中高連携の学校行事をより充実させる。 ・県立川島中学校オープンスクールでの学校説明会や、県立川島中学校3年生対象説明会での発表内容を十分検討する。 ・中高相互の授業見学、研究授業に対する協議や中高合同の教科会において、授業方法等について検証し、生徒が積極的に授業に参加する授業展開が出来るよう授業の工夫改善を図る。</p> <p>②・令和4年度の教育課程を教育課程委員会及び中高一貫教育推進委員会で検討し編成する。その中で、令和4年度入学生より新課程となることを見据えた教育課程を考える。 ・来年度の学力確認テストの実施や授業の展開、クラス編制等の検証をする。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①・令和3年の1月に6年生を対象とした中高一貫教育アンケート結果を参考に、中高一貫教育推進委員会で中高の学習指導、進路指導や生徒間の交流について協議した。また、「先輩に学ぶ」と題して、2年生が5年生から高校生活の話を開いたり、質問したりといった形での取り組みや、例年行っているスペシャルアプローチ(SA)での5年生が3年生を指導する特設SA、さらには中学生の高校部活動への参加について等、多彩な中高一貫連携について検討した。</p> <p>②・令和4年度入学生の教育課程については、教科会及び教育課程検討委員会、中高一貫教育推進委員会を開催して検討し、新課程での新しい教育課程を作成した。 ・中高相互の授業見学や中高合同の教科会を実施し、生徒の実情や進捗状況を確認した。 ・定員の発表を受け、令和4年度入学生のクラス編制について、中高一貫教育推進委員会などで検討し、応用クラスの方向性について確認した。</p>		

令和3年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(2)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>(2) 確かな学力の充実と指導力の向上</p>	<p>①面談を充実させ手帳を活用することで自主学習の促進に努める。</p> <p>②学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。</p> <p>③「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の研究を推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度75%以上をめざす。</p> <p>②③・生徒の授業に対する満足度は、75%以上をめざす。</p> <p>②③・国・歴・公・数・理・英において研究授業と研究協議を年間3回以上実施する。</p> <p>②③・授業力向上と指導力向上を目的とした研修を年間2回以上実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度は84.4%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝の学習に毎日取り組むことは効果があると感じた生徒は46.2%であった。</li> <li>図書館の年間入館者数は7,224人(1月末現在)で、昨年より396人減少した。図書貸出冊数は3,597冊(1月末現在)で、前年より652冊増加した。</li> </ul> <p>②③・授業に対する生徒の満足度は92.2%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別学習や少人数学習に対する生徒満足度は72.0%</li> </ul> <p>②③・国・歴・公・数・理・英において研究授業と研究協議を年間4回実施した。</p> <p>②③・オンラインによる教科指導・進路指導研修を各教科に案内し多くの先生方が参加し研鑽に努めた。(年間20回以上)</p>	<p>総合評価</p> <p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>〈所見〉</p> <p>三者面談や個人面談に対する肯定的意見が生徒84.4%、保護者83.9%となり、生徒保護者ともに面談等のサポート体制には満足できているようである。</p> <p>生徒の授業に対する満足度は目標の75%以上を達成できている。今年から、生徒用タブレットを利用した授業が始まり、ICTを活用した授業が定着しつつあるが、より一層の指導力の向上と、授業改善に努めたい。</p>	<p>○三者面談や個人面談に対する生徒の満足度、授業に対する生徒の満足度がいずれも目標値を超えていることを評価したい。指導法を工夫し、授業スキルのアップを図ろうとする教員の姿勢と地道な努力の成果と考える。生徒の授業に対する満足度を家庭における自主学習の習慣化につなげる手立てをさらに追求されたい。</p> <p>○朝の学習の時間は悩ましいと思うが、何とか効果的な活用を模索してもらいたい。ICTの活用も含め、取り組みを進めてもらいたい。</p> <p>○三者面談などをして、生徒一人一人の学力の充実を図りたい。</p> <p>○生徒、教員、保護者の一致を努力するべき。</p>	<p>○生徒保護者ともに面談に対する満足度は高いが、学力向上や進路指導の充実を図るため、個別面談や三者面談の充実に一層努め、生徒の実態に合った具体的なアドバイスや課題を与える。また、各教科で家庭学習時間増加のための手立てを考えるとともに、学習方法の指導も行う。</p> <p>○「朝の学習の時間」は、4・5年生は基礎学力の定着を目標に小テストを実施しながら自学自習の時間として行っているが、生徒・教員からも効果を疑問視する声もある。来年度は内容を検討し改善する必要があると考える。</p> <p>○社会の変化に伴い、思考力・判断力・表現力や主体性が評価される入試となり、あわせてコロナ禍でICT活用力が必須となった。これまで以上に教員の指導力の向上と授業改善が必要である。</p> <p>○模試分析会や教科会を定期的に実施し、生徒の現状を年次団や各教科担任が分析し、個々の指導改善を行う。</p> <p>○読書については、調べ学習や進路に関する図書の利用などを通して、さらに推進する必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①・面談習慣を各学期に設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週月曜の朝、手帳(スラット)に週の計画を立てさせる。また、可能な範囲で授業でも活用する。</li> <li>宿題・週末課題の提出を義務づける。</li> <li>家庭学習時間調査を年6回行う。</li> </ul> <p>②③・学力向上検討委員会と連携し、国・歴・公・数・理・英における学力・学習状況についての目標・方策を設定し、学習支援体制の改善に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①・個人面談は4月と9月、及び10月の科目登録時を含め3回以上実施できた。また、保護者面談は8月の三者面談、10月の年次PTAなどで実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝の学習は全校集会など特別な場合を除き毎日実施できた。4・5年生は、国数英を中心に小テストを行うなどして基礎学力の向上に向けて努力を重ねることができた。6年生は生徒の進路希望に沿った内容をホームルーム単位で実施した。</li> <li>朝の学習ノートや手帳(スラット)は、生活の記録、学習内容や時間を担任がチェックした。</li> <li>宿題・週末課題は、提出させて教科担任がチェックした。</li> <li>家庭学習時間調査は、毎月実施し集計結果を職員会議等で報告した。</li> <li>図書館では季節ごとにテーマを設け図書館の利用促進を図るとともに、調べ学習に使える資料や小論文によく出る本の購入や紹介に努めた。</li> </ul> <p>②③・今年度も中高合同で学期末に教科会を実施した。さらに進研模試の結果を学年で分析した。これらの取り組みを通して授業改善に生かすと共に、教師の意識改革、ノウハウの共有を進めた。</p>	<p>学期末の教科会と学年での進研模試の結果の分析を実施することで、教員同士で重点的に指導する分野の共有が図られ、その結果、その分野の模試の成績の向上につながったと考えられる。</p> <p>図書館の貸出冊数が昨年より増加した。授業での利用をさらに呼びかけ、読書への意欲喚起を促す努力を続けたい。</p>		

令和3年度徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(3)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>(3) 生徒の能力・適性に応じた進路の実現</p>	<p>①進路指導プログラムの改善・充実を図り、進路達成意欲を高める。</p> <p>②生徒・保護者との温かい人間関係を構築し、より高い信頼関係に基づいた進路指導を行う。</p>	評価指標	評価指標の達成度	活動計画	活動計画の実施状況	<p>○コロナ下の制約下、感染予防に配慮しながら計画を工夫して実施したことを評価したい。生徒が適切な進路選択をするためには、最新かつ良質な情報の提供が欠かせない。生徒が常に自らの能力と適性を押し量りながら、進路の実現に向けて邁進していけるよう、きめ細かた、積極果敢な進路指導を望む。</p> <p>○やはり、補習、課題テスト、模試等への積極的な取り組みは、生徒にとっては進路への不安に向き合う苦しいことにもつながるので高い数字が出にくいのだと思う。地道な寄り添い、励ましを継続してほしい。</p> <p>○テストや補習で個人の能力を伸ばし進路に導いていくといいと思う。</p> <p>○現状で努力をいただいている。</p>	<p>○補習や課題テスト、模試等へ積極的に取り組む生徒が70%を超えていない。明確な進路目標を持つことが大きな躍進力になるので、早期から自己分析や進路調べを行わせたい。また、現在の補習の形式を考え直す必要があると考える。</p> <p>○進路指導に対する保護者の満足度はおおむね評価指標の目標に達してはいるが、社会や入試が大きく変わっていく中で、今よりも、最新の情報を提供していく必要がある。そのため次年度は毎月の進路便りを発行するなどして、情報発信の充実を図りたい。</p> <p>○年次PTAの参加率を高め、参加できない保護者へも情報が伝わるような工夫を行い、家庭と連携して生徒が進路を決定していけるようにする。</p>
		活動計画	活動計画の実施状況				
		<p>① 補習、校内課題テスト、模試等に積極的に取り組む生徒の割合は、70%以上をめざし、保護者の満足度は、80%以上をめざす。</p> <p>・進路意識を高める行事や講座に対する満足度は、生徒・保護者ともに75%以上をめざす。</p> <p>② 保護者または生徒対象の進路講演会を年間3回以上実施する。</p> <p>・進路指導に対する保護者の満足度は、75%以上をめざす。</p>	<p>① 補習、課題テスト、模試等に対して積極的に取り組んでいる生徒は65.3%、保護者の満足度は88.3%であった。</p> <p>・進路意識を高める行事や講座に対する満足度について、生徒は71.8%であり、71.4%の保護者が進路情報を得られる機会が設定されていると感じている。</p> <p>② 生徒対象または保護者対象の進路講演会を年間5回実施した。</p> <p>・進路指導に関する保護者の満足度の各項目を平均すると78.7%であり目標を達成できた。</p>	<p>① 進路実現のために補習、課題テスト、模試を計画的に実施するだけでなく、「朝の補習」「サマーチャレンジ」「土曜日補習」など様々な学習支援を行い、学力養成を図る。</p> <p>・全学年に対し「アカデミックレクチャー」を実施し高大連携を推進する。</p> <p>・小論文講演会、進路講演会、進学座談会を各1回以上実施する。</p> <p>・6年生の就職生集会を年8回、5年生の就職・公務員説明会を年1回実施する。</p> <p>② 夏季休業中、冬季休業中、大学入学共通テスト後などに、三者面談を実施する。</p> <p>・年次PTAを年2回(6・10月)実施し、保護者面談や保護者対象の進路講演会を実施する。(今年度6月は中止)</p>	<p>① 補習、課題テスト、模試、「サタデーサポート(土曜日補習)」等の学習支援をその都度の状況に合わせて計画を見直しながら実施した。</p> <p>・「キャリアレクチャー」、「アカデミックレクチャー」はリモートを活用したりするなど、コロナウイルス感染予防に努めながら実施した。</p> <p>・小論文模試を各年次ともに1回ずつ実施した。入試小論文指導は個別指導で行った。</p> <p>・小論文講演会を各年次ともに1回ずつ実施した。進路講演会は各年次1～3回実施した。</p> <p>・6年生の就職生集会を8回実施した。5年生の就職・公務員説明会を実施し、公務員希望の生徒には校外模試を実施して実力の判定と進路指導に役立てた。</p> <p>② 夏季休業中は生徒全員を対象に、冬季休業中及び大学入試出願前などには随時三者面談を実施し、保護者との連携強化に努めた。</p> <p>・10月の年次PTAではリモートを活用しての保護者対象の進路講演会を実施し、保護者面談も行った。</p>		

令和3年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(4)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>(4) 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底</p>	<p>①生徒一人一人の自覚を促し、基本的生活習慣を身につけさせる。</p> <p>②あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①・全校集会、指導週間を月1回実施し、基本的生活習慣の確立を中心とした生徒指導の徹底・充実に努める。</p> <p>・学校評価アンケートにおける、生活面に関する生徒の達成度は、80%以上をめざす。</p> <p>②・学校評価アンケートにおける、生徒指導に関する生徒・教職員の達成度は、80%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①・年間で全校集会を5回、指導週間を11回実施した。</p> <p>・基本的生活習慣、社会のルールやマナーの大切さを自覚させる指導に関する肯定的意見は、生徒は93.0%、保護者は84.7%、教職員は96.9%であった。携帯電話・スマートフォン使用時のルールやマナーを理解させる指導に関する肯定的意見は、生徒は94.4%、保護者は85.6%、教職員は100%であった。服装・頭髪等高校生らしい身だしなみを心がけて生活しているか(適切な指導が行われているか)に関する肯定的意見は、生徒は93.0%、保護者は91.3%、教職員は87.5%であった。</p> <p>②・学校には悩み等を相談できる教員や友達がいるかに関する生徒の肯定的意見は90.1%であった。学校は、保護者からの連絡や相談に迅速かつ丁寧に対応することに関係する保護者の肯定的意見は83.9%であった。教員の共通理解のもと適切できめ細やかな生徒指導に関する肯定的意見は、保護者は79.8%、教職員は96.9%であった。適切な保健・安全教育が行われ健康で安全な生活を心がけているかに関する肯定的意見は、生徒は93.0%、保護者は89.1%、教職員は100%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>9割近くの生徒は基本的生活習慣、社会のルールの大切さを自覚し生活することができている。しかし、一部の生徒において自分勝手な行動が見られる場面もあった。</p> <p>服装頭髪等の継続的指導を要する生徒はごく一部に限られ、9割強の生徒は身だしなみを心がけて生活できている。しかし、ネクタイ等の着こなし、女子のスカート丈や男子の柄物靴下や奇抜な髪型などの一部生徒の違反に対しては、継続しての指導が必要である。</p> <p>友達や先生等校内に悩み事を相談できる生徒の割合は9割、迅速で丁寧な相談体制を評価する保護者指数は8割を超えた。今後も個に応じた組織的な取り組みを継続していきたい。</p> <p>適切な保健安全教育が行われ高い評価を受けている。9割以上の生徒は健康安全について高い意識を持つ一方で、自己の健康管理が不十分な生徒が見受けられる。</p>	<p>○全校集会、年次集会、ホームルーム活動、指導週間の設定等を通して、積極的に指導の徹底に取り組んでいることを評価したい。一部の生徒に自分勝手な行動や服装頭髪違反があるとのことであるが、粘り強く指導を継続してほしい。基本的生活習慣の大切さについて、考え、話し合うホームルーム活動をさらに活用してほしい。</p> <p>○基本的生活習慣の確立を図る生徒指導がとても充実していると感じる。取り組みを継続してほしい。</p> <p>○身だしなみは大切。</p> <p>○保護者の家庭内指導が不十分ではないか?学内での指導には限りが出ると思う。</p>	<p>○授業を受ける態度指導、身だしなみ指導、遅刻指導や生活安全指導等について、正副担任や各年次団、生徒課の役割を明確にし、それぞれが連携を図り効果的な指導を継続して行う必要がある。</p> <p>○保護者との連携のもとで保健相談課を中心に関係する複数の教員が関わり、個別事案に応じた適切な支援を行う必要がある。そのためには、連携協力体制づくりが重要である。</p> <p>○健康と安全の意識の上に立って健康管理を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。面談等を活用し、生徒個人の理解を深める努力をしていきたい。</p> <p>○交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底と自他の安全を守る意識の向上に努めることが重要である。</p> <p>○SNSは公共の場であることや、その向こう側には善意の人ばかりでなく様々な人がいることを意識させ、携帯電話やスマートフォン使用時のルールやマナーを身につけさせることが必要である。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①・ホームルーム活動、年次集会、全校集会、指導週間等のあらゆる機会を活用し生徒の自覚を促し、指導の徹底を図る。また、登下校指導、校内外巡視等を適宜実施し、生徒の実態把握とともに生徒の注意を喚起することによって事故や問題行動の未然防止を図る。</p> <p>②・授業態度、身だしなみや携帯電話に関する指導等について共通理解し、指導の徹底を図る。また、教職員間の情報交換を密にし、個々の生徒の指導について連携して取り組む。さらに、ホームルーム担任を中心に保護者との連絡を密にし、相談等に対応する。</p> <p>・長期休業中の校外巡視等を、PTAや地域、青少年育成補導センター、警察署等の協力のもとで実施し、連携を深める。</p> <p>・交通講話、非行防止教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室(4年生対象)、健康教育講演会(4年生対象)を年1回以上実施する。</p> <p>・SCや学校外の機関とも必要があれば連携を取り、丁寧な支援を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①・全校集会、年次集会、ホームルーム活動等を通して、生徒指導上の注意事項について生徒自身に考えさせ、事故や問題行動の未然防止を図った。また、毎月20日の「学校安全の日」にあわせて3日間の指導週間を設定し、登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導、校内外巡視を実施した。生徒会役員と生活委員による朝の挨拶運動、交通委員による下校時の交通マナーアップの呼びかけ等、生徒による活動も積極的に実施した。</p> <p>②・「携帯電話校内使用禁止」の校則に基づいて、落ち着いて学業に取り組める環境づくりに努めた。また、放課後の使用や校外での使用についても自覚を促し、ルールやマナーを守り、よく考えて行動させることにより、携帯電話に関連するトラブルや犯罪の未然防止を図った。また、授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、継続的な指導を行った。</p> <p>・校外巡視等で関係機関との連携を深めることができた。</p> <p>・各種講演会を実施した。</p> <p>◇阿波吉野川警察署交通課より講師を招いて交通安全講話を実施した(7/19)。</p> <p>◇交通マナーへの意識の向上を目的として、阿波吉野川警察署と合同で交通安全運動を実施した(9/24)。</p> <p>◇様々な非行と犯罪(加害・被害)の防止を目的として、公益財団法人e-とくしま推進財団から講師を招いて、非行防止教室を実施した(12/22)。</p> <p>◇阿波吉野川警察署生活安全課スクールサポーターを講師に招き、4年生に対して薬物乱用防止教室を実施した(5/10)。</p> <p>・4年生に対しての心肺蘇生法講習会は今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取りやめになった。夏季休業中に生活習慣改善プロジェクトを全学年で実施した。</p> <p>・年に2回悩みごとアンケートを実施し、生徒の把握に努めると同時にスクールカウンセラーへの支援要請など早期対応を図った。</p>	<p>○基本的生活習慣の確立を図る生徒指導がとても充実していると感じる。取り組みを継続してほしい。</p> <p>○身だしなみは大切。</p> <p>○保護者の家庭内指導が不十分ではないか?学内での指導には限りが出ると思う。</p>	<p>○健康と安全の意識の上に立って健康管理を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。面談等を活用し、生徒個人の理解を深める努力をしていきたい。</p> <p>○交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底と自他の安全を守る意識の向上に努めることが重要である。</p> <p>○SNSは公共の場であることや、その向こう側には善意の人ばかりでなく様々な人がいることを意識させ、携帯電話やスマートフォン使用時のルールやマナーを身につけさせることが必要である。</p>	

令和3年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(5)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>①人権教育指導計画の推進と“あわ”人権学習ハンドブックの活用により、人権問題を解決できる生徒の育成に努める。</p> <p>②人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①・「人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>②・「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合は、85%以上をめざす。</p> <p>・「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合は、85%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①・人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実していると思う生徒の割合は、「そう思う」(36.0%)と昨年比1.5ポイント向上した。また「ある程度そう思う」は(50.8%)を合わせると86.8%(昨年比4.6ポイント増)であり、ほぼ目標を達成することができた。</p> <p>②・人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしていると思う生徒の割合は、「そう思う」(44.6%)と「ある程度そう思う」(43.5%)を合わせると88.2%(昨年比2.5ポイント減)であったが、目標を達成することができた。</p> <p>・人権を大切にしている教育活動が行われていると思う保護者の割合は、「そう思う」(21.3%)と「ある程度そう思う」(64.6%)と合わせると85.8%(昨年比2.7ポイント増)となり、目標を達成することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>人権学習ホームルーム活動の中で“あわ”人権学習ハンドブックを活用し、多様なテーマを取り入れるよう配慮し、年次の状況に応じた内容の展開となった。</p>	<p>○人権教育の核として、人権学習ホームルーム活動が、適切に実施され、人権の大切さについて考え、話し合い、共に学ぶ機会とできていることを評価する。各学期の人権新聞の発行や、毎月の人権の日の放送など、生徒の人権尊重の意識を高めるための多様な活動が系統的、継続的にきめ細かく実施されていることを評価する。</p> <p>○様々な視点から人権学習が展開されていると感じる。人権の日の取り組みはこれからの大事にしてほしいと思う。人前で自分の意見が言えること、様々な人の意見を聞くことは、自分の考えをもち、行動していく上で大事だと考える。</p> <p>○人権学習は小さい頃からしていると思うが、大人になっていく上で学んでいくのがいい。</p> <p>○引き続き継続。現状で良く指導いただいていると思う。</p>	<p>○人権学習ホームルーム活動の主題設定や内容について各年次の状況を考慮し、より一層精選する。</p> <p>○評価指標としている、生徒、保護者の意見において、「ある程度そう思う」から「そう思う」の割合が増加するような取り組みを目指していく。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動の展開や資料等について、テーマは生徒の状況に合わせたものを用いるなど、常に状況を把握し精選する。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動に人権委員のより積極的な参加を促す。また、人権委員が主体的に活動できるよう事前の指導をより一層工夫していく。</p> <p>○「人権の日」の放送では、引き続き「個別的な視点」や身近な人権、最近の人権問題等について考え、様々なテーマとなるよう内容を工夫する。中学校への放送や中学生の放送担当も継続させ、道徳的内容にも適宜触れながら、中高連携を意識した内容を工夫する。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①・人権学習ホームルーム活動においては、各年次や各クラスの実態に応じた学習主題を設定し、できるだけ多くの「個別的な視点」や「普遍的な視点」を盛り込んだ授業を展開し、生徒が積極的に参加できる授業の改善に努める。</p> <p>・各年次で必ず「同和問題」についての学習を取り上げ、同和問題に対する生徒の意識の向上を図る。</p> <p>・徳島県人権教育推進方針に追記された「日本人拉致問題」「災害時における人権問題」や「性の多様性」、また、国の新しい指針に基づき、「子どもの人権」と「新型コロナウイルス感染症」等についても教材化に努め、「人権の日」の放送等でも積極的に取り入れる。</p> <p>・授業展開・資料に関して近年の新しい人権課題や他校の動向等も考慮し、指導内容の改善に努める。</p> <p>②・支援学校との交流への積極的な参加を促し人権意識の高揚を図る。</p> <p>・人権新聞の内容の充実を図り、年3回発行する。</p> <p>・講演会や「人権の日」の放送等については、中学校や保護者等に配慮して検討し充実させる。</p> <p>・校内外の様々な取組において人権委員がリーダーシップを発揮し、人権委員会の活動が活性化するように指導する。</p> <p>・人権尊重の精神の涵養を図り、日頃の声かけ、呼びかけに努める。</p> <p>・道徳教育の観点からもすべての教育活動において、生徒一人一人の「生きる力」の育成に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①・人権教育推進委員会で企画・立案した年間指導計画に沿って人権学習ホームルーム活動が展開できた。</p> <p>・主題設定には“あわ”人権学習ハンドブックを積極的に活用し、高校3年間を見据えてできるだけ「個別的な視点」と「普遍的な視点」をバランスよく取り入れた。また、昨年度と同様に「個別的な視点」の中でも特に「同和問題」に重点を置き、各年次において必ず取り上げるように計画し実施した。</p> <p>・人権学習ホームルーム活動の生徒の「自己評価票」により、生徒の取り組みや感想が把握でき効果的に利用した。</p> <p>②・「人権新聞」を各学期毎3回発行し、生徒の感想文等内容の充実を図り、家庭への良き情報発信となった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症への対策のため、鴨島支援学校運動会や学校祭に参加し交流を深めることができなかった。</p> <p>・10月に実施した人権教育講演会は、徳島被害者支援センター主催の「命の大切さを学ぶ教室」として、少年犯罪被害当事者の会より一井彩子氏をお招きし、「子どもたちを被害者にも加害者にもしないために」という演題でZoom配信を利用して行った。少年犯罪により長男を喪った被害者家族の講話で、悲惨な事件の概要に衝撃を受けた生徒が多かったようである。生徒の感想文には事件の内容を知った驚き、被害者家族の苦悩に心を寄せながら「命の大切さ」について深く考えを巡らせたものが見られた。当事者の体験を直接聴いたことは、生徒たちの心を動かす貴重な機会であったと感じる。</p> <p>・毎月10日の「人権の日」では年間を通じて各ホームルームの人権委員による「人権の日」の放送を行い、人権委員会活動の活性化に繋がった。取りあげたテーマは、「SDGsと人権」「新型コロナウイルス感染症に関連した差別事象」、「子どもの人権」「私たちがSNSで誹謗中傷の加害者にならないためにできること」等の問題も取り上げ、生徒自身の人権意識や道徳に対する意識の向上に努めた。中学生にも放送を担当してもらい、人権学習の内容である「識字学級に参加し感じたこと・学んだこと」や「環境問題と人権問題のつながり」について紹介するなど、中高連携で同じ人権課題について共に学ぶ機会とした。校内において人権委員がリーダーシップを発揮し、啓発活動は活性化している。</p>	<p>鴨島支援学校との交流は、6月の鴨島支援学校の運動会、11月の鴨島支援学校の学校祭ともに参加できず、残念であった。</p> <p>「人権教育講演会」は保護者の参加もあったが、本校ホームページでも発信した。本校の人権教育に対する理解が進んだと考える。生徒にとっても身近な問題であり、印象深かった。</p> <p>今年度で14年目である「人権の日」の放送は、朝の学習時間を利用し各ホームルームの人権委員が意欲的に取り組み充実していた。今年度より、Zoom配信で行っているが、啓発活動がより充実したという感がある。様々な「個別的な視点」や「道徳的内容」を取り上げ「知る」ことの大切さや身近な人権について考えを深めることができた。</p>		

令和3年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(6)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(6) 心身ともに健康な生徒を育てる 特別活動の充実	①学校行事、生徒会活動等を通じて生徒の自主性の育成に努める。  ②部活動のより一層の充実と活性化を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		○特別活動の中核たるホームルーム活動の充実に関する評価がほとんどなされていないことが残念である。心身ともに健康な生活態度を育てるには、共に生活や学習に取り組む生徒で構成されるホームルームでの話し合いを通じて、自己の課題の解決や将来の生き方を描くために意思決定していこうとする自覚の涵養が大切である。  ○新型コロナウイルスの影響の中、部活動入部率が100%を超えており、すばらしいことだと思う。学校の活力の強さを感じる。  ○こんな時ですが、学校行事や部活動を通じて健康的に過ごしていく事がいい。  ○生徒によっては、不十分かもしれない。	○生徒会役員会や各種委員会を開催し、ホームルームや部活動における満足度・不満足度などを検証し改善する。  ○生徒会活動がより積極的に行えるよう、定期的な情報交換会やアンケート調査を活用し、生徒の意見を積極的に取りあげ学校行事に活かしていくよう工夫する。  ○生徒主体の活動が行えるよう特別活動課員と生徒会役員との連絡を密にし学校行事等の事前準備を十分にすする。  ○教員数減による部活動の在り方と並行して中高一貫教育校としての特色を活かす部活動の在り方を考える。  ○新しい生活様式の中で学校行事と部活動の在り方を考え、より良い対策を講じていく。
		①・通学路の一斉清掃を年間で2回実施する。 ・川島中高祭、球技大会など、学校行事への生徒の満足度を85%以上にする。 ・生徒の主体性を促し、学校行事や生徒会活動に積極的に参加するよう適切な指導を行う。  ②・中央委員会を開催する。 ・部活動の入部率90%以上をめざす。 ・部活動委員会を年2回開催する。	①・通学路の清掃に関しては、年間を通して2回実施することができた。 ・川島中高祭、球技大会など、学校行事への生徒の満足度が84.1%となり目標の85%以上は達成できなかった。  ②・部活動の入部率は114%（男子87%、女子132%）と目標を達成できた。 ・部活動委員会を年2回開催し、部活動の活性化等について話し合うことができた。	〈評定〉  B  ----- 〈所見〉	本年度も昨年同様に新型コロナウイルスの影響により学校行事の規模縮小等で十分な活動ができなかった。新しい生活様式の中で生徒が充実感を持てる学校行事の在り方を精査し実施できるように来年度に向けてより充実したものに改善していきたい。		
	活動計画	活動計画の実施状況	部活動の入部率は目標を達成した。複数の部活動に入部している生徒もおり、積極的に部活動に参加していることがうかがえる。来年度は教員数の削減により部活動の精選を行わなければいけないが生徒ファーストで実施できるよう配慮したい。さらには中高一貫教育校としての特色を活かす部活動運営を模索したい。				
		①・生徒会や各種委員会が連携し、通学路や校内の清掃を行うなど積極的に美化活動に取り組む。 ・川島中高祭への積極的参加を促し、意識の高揚を図る。また、生徒会を中心に生徒が主体となって運営できるよう適切な指導を行う。  ②・部活動への積極的な参加を促す。また、部員同士で十分に話し合いをさせ、年間活動方針を明確にさせる。 ・部活動委員会を通して、部活動間で連携を深めるとともに、問題点を抽出し話し合う。		①・今年度は通学路の清掃や美化活動を2回行うことができた。 ・生徒会では役員を中心に、学校祭の計画や実施、あいさつ運動などを行う事ができた。また、学校行事の規模が縮小される中、生徒会を中心に学校行事の在り方を精選、変革する活動を行っている。  ②・今年度は、新入生部員の入部率が113%となった。(昨年度は83%) 各部活動で新型コロナウイルスの影響がある中、年間を通じて積極的に活動を行ってくれた。 ・部活動委員会を通して、各部活動間で連携を深めると共に、中高一貫教育校の特色を活かす部活動の実施について話し合った。			

令和3年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(7)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>①「新学校版環境ISO」に取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①・「『新学校版環境ISO』に取り組む、清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>②・「外国語の習得や国際理解に努めようとして授業授業や活動に積極的に取り組んだ。」と思う生徒の割合は70%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①・「清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は76.6%（前年度より2.5ポイント減少）であり、目標達成まで、あと一歩だった。</p> <p>・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答した生徒の割合は88.2%（前年度より1.8ポイント減少）であり、目標を達成することができた。</p> <p>②・四国大学の留学生とのオンライン交流会では、事前に質問を英語で考えたり、各国の文化や習慣について調べ、交流会の後でも更に知識を深め充実した体験をすることができた。</p> <p>・校外のセミナーの機会は例年より少なかったが、積極的に参加しようとする姿勢が見られた。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>○新学校版環境ISOは、従来の節電、節水、ゴミの分別に止まることなく、学校から地域に出向いての活動の拡充が求められており、この視点を忘れてはいけない。</p> <p>○ゴミの分別、節電、節水等に努める活動はさらなる定着をめざして粘り強く継続してもらいたいと思う。</p> <p>○ゴミの分別にしっかり取り組むのはいい。</p> <p>○今後、より一層の推進が必要かと思う。現状に不満は感じない。</p> <p>○地元大学の外国人留学生との英語によるオンライン交流会は、参加生徒だけでなく、全生徒が共有体験できる国際理解教育の機会として工夫してほしい。</p> <p>○国際理解教育への取り組みの中で、自分たちの身の回りの歴史や文化についても理解を深めてほしいと思う。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>○ゴミの分別については、しっかりと取り組んでいる。生活様式の変化もあり、主体的に清掃に取り組む生徒が減りつつあるので、日頃の清掃活動においては具体的な行動を示し、美化委員会の活動を通してリーダーシップを発揮できる生徒を育てる。</p> <p>また、各クラスのE c o D i a r yを活用し、美化意識を高める。</p> <p>○オーストラリアとの交流事業再開は難しい状況だが、県内で可能な国際交流やオンラインでのセミナーなどに参加する機会を持ち、継続的に海外に目を向けて広い視野と語学力を持った生徒を育てる。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①・『新学校版環境ISO』告知板を掲示し、活動内容の広報に努める。</p> <p>・各クラスの日直に「節電・節水、ゴミ処理、環境美化への取組」をE c o D i a r yに記録させ、意識の高揚を図る。</p> <p>・各クラスにゴミ箱3種類と「古紙回収箱」を設置し、ゴミ分別とゴミの減量化を呼びかける。</p> <p>・「レッツ・クリーン」環境美化活動を積極的に推進する。</p> <p>・美化委員を中心に、節電・節水やゴミ分別に関するポスター、電気・水道使用量のグラフなどを掲示する。</p> <p>②・ICTを活用して海外の文化や習慣について興味・関心を高める授業を行う。</p> <p>・海外の学校との交流行事や校外の国際理解プログラムへの参加を積極的に促し、参加に向けた適切な指導を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①・『新学校版環境ISO』告知版を設置し行動方針等諸活動の内容を紹介した。</p> <p>・各クラスでE c o D i a r y（節電・節水・ゴミの分別等の記録表）を記入し、啓発に役立てた。</p> <p>・美化委員を中心に、ゴミの分別を徹底した。</p> <p>・「レッツクリーン」環境美化活動を2回実施した。</p> <p>・電気や水道の使用量のグラフを掲示し、美化委員から節電・節水の協力を呼びかけた。</p> <p>②・オーストラリアへの語学研修は中止となってしまったが、県内の大学（四国大学）の留学生（5か国）とのオンライン交流会を開催し、4名の生徒が参加した。</p> <p>・四国大学で行われた「わくわくイングリッシュセミナー」に2名参加した。グローバルキャンプには4名が参加した。</p>		



令和3年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(8)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進	<p>①地域貢献活動等の活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域の連携を深め、外部評価結果を生かす取組を促進する。</p> <p>②地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め、地域防災を担う人材を育成する。</p>	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	<p>○ホームページについては、各行事の記録更新に加え、部活動の日々の活動記録も定期的に更新できるようにする。</p> <p>○コロナ禍の状況を見ながら、可能であれば、地域での防災クラブの積極的な活動を行う。また、実際に起こり得ることを想定した防災訓練を行い、生徒の意識や対応力を高める。生徒だけでなく教職員にとっても、実践的な訓練になるよう工夫する。</p>
		<p>①・ボランティア活動を通じて感動や喜び、達成感などを習得し、心豊かな生徒の育成をめざす。</p> <p>・学校行事や部活動のホームページ更新を速やかに行い、「ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立っている」と思う割合を、生徒・保護者とも70%以上をめざす。</p> <p>②・防災・減災の意識が向上したと実感できる生徒の割合を80%以上にする。</p>	<p>①・今年度は新型コロナウイルスの影響で、積極的な活動ができなかった。</p> <p>・ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立っていると思う割合は、生徒は61.1%(前年比1.0ポイント増)、保護者は73.9%(前年比7.1ポイント増)となり、生徒・保護者の評価指標は増加したが、生徒の目標達成はできなかった。</p> <p>②・防災訓練・教育に関する生徒の満足度は93.0%で、近年では最も高い。実際に地震が起こったときも、教員の指示を待たずに、ほぼ全員が素早く机の下に隠れるなど、初動対応ができていた。</p>	<p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>〈所見〉</p> <p>ホームページについては、学校行事の様子を実施後速やかに発信できたが、生徒の興味が高い部活動の結果などがあまり更新できていない。そのため、生徒の肯定的な意見が評価指標に達しなかったと思われる。</p> <p>防災訓練は、毎年同じような訓練にならないように、設定を変えるなどして、工夫して行っている。生徒の防災意識にも良い影響を与えられることができた。</p>			
		活動計画		活動計画の実施状況		<p>○起こりうる様々な状況を想定した防災訓練を工夫していることを評価したい。いついかなる災害に遭遇しても、適切に対処できる危機管理意識の醸成に努められたい。</p> <p>○防災訓練・教育が工夫して行われることで、生徒の意識、行動の向上につながっていることはすばらしい。これからも地道な取り組みを継続して欲しい。</p>	
		<p>①・イベントに際しては積極的にボランティアとして参加させる。</p> <p>・ホームページ更新方法の講習会等を開き、掲載情報の拡充に重点を置き、最新情報の掲載や項目の追加を適時効果的に行う。</p> <p>②・より実践的で生徒らが主体的にできる防災訓練・避難訓練を実施する。</p> <p>・地域の防災訓練への参加呼びかけを行う。</p> <p>・防災クラブによる積極的な防災活動を学校行事などを通して実施する。</p>	<p>①・今年度は新型コロナウイルスの影響で、積極的な活動ができなかった。</p> <p>・ホームページの更新方法の講習会を開くことができた。学校行事の様子を実施後速やかに発信した。</p> <p>②・防災訓練は、今年も内容を変更した。状況を把握し考えて行動するなど、生徒の意識の高まりにもつながった。</p> <p>・コロナ禍の影響を受け、地域でのイベントも少なく、防災クラブの地域での積極的な活動はできなかった。</p>				